

## 「JR 気仙沼線及び JR 大船渡線の復旧・復興」の要望について

このことについて、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

### 記

#### 1 目 的

東日本大震災により被災した JR 気仙沼線及び JR 大船渡線について、本日（2月15日）、鉄路での早期復旧を東日本旅客鉄道株式会社に要望するとともに、国土交通省にそのための財政措置等を要望するものです。

#### 2 要望・時間

- (1) 東日本旅客鉄道株式会社本社 午後2時～
- (2) 国土交通省本省 午後3時～

#### 3 要望宛先

- (1) 東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 せいの さとし 清野 智
- (2) 国土交通大臣 まえだ たけし 前田 武志

#### 4 要望対応者

- (1) 東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長 とみた てつろう 富田 哲郎
- (2) 国土交通省 鉄道局長 くぼ しげと 久保 成人

#### 5 要 望 者

気仙沼市長 菅原 茂

気仙沼市議会議長（JR大船渡線・気仙沼線の全線復旧を実現する気仙沼市議会議員連盟会長） 臼井 真人

※東日本旅客鉄道株式会社には佐藤南三陸町長及び後藤南三陸町議会議長が同席し、別途要望書が提出されます。

#### 6 本市要望内容

別紙のとおり

平成 24 年 2 月 15 日

東日本旅客鉄道株式会社

代表取締役社長 清 野 智 様

## J R 気仙沼線及び J R 大船渡線の 復旧・復興に係る要望書

気仙沼市長 菅 原 茂

気仙沼市議会議長 臼 井 真 人

(J R 大船渡線・気仙沼線の全線復旧を実現する気仙沼市議会議員連盟 会長)

## 要 望 書

今般の東日本大震災により、ＪＲ気仙沼線は気仙沼駅・柳津駅間において、また、ＪＲ大船渡線は気仙沼駅・盛駅間において、それぞれ多くの駅舎や線路が流出するとともに、その鉄道敷も大きく損なわれるなど、壊滅的な被害状況を呈しております。

震災からまもなく１年を迎えようとしておりますが、この間、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社及び盛岡支社、国土交通省東北地方整備局及び東北運輸局、沿線自治体等で構成する「ＪＲ気仙沼線復興調整会議」及び「ＪＲ大船渡線復興調整会議」がそれぞれ設置され、意見交換等が行われてきたものの、いまだに鉄道による復旧の見通しは示されず、両路線とも放置され運休のままとなっております。

ＪＲ気仙沼線及びＪＲ大船渡線は、先人の鉄道敷設に対する強い思いと度重なる請願により全線開通を果たしたものであり、特にＪＲ気仙沼線は構想から全線開通まで約８０年の年月を要した悲願の路線であります。開通後は通勤、通学や高齢者の通院など沿線住民の生活の足として、また仙台市と本市を最短時間で結ぶ都市間連絡機能として、さらには、三陸復興国立公園（仮称）構想の実現を目指す各地域を結ぶ観光を含めた産業全般を支える基盤として重要な役割を担ってきました。

このような中、津波で大きな被害を受けた路線について、昨年４月５日の記者会見における清野社長の「責任を持って復旧させる」との発言により、沿線住民は早期の鉄道による復旧を確信し、去る２月８日には、八戸市から気仙沼市までの三陸沿岸７都市で構成する三陸沿岸都市会議においても、鉄道による早期復旧を内容とする要望実施を決議したところであります。

御社におかれては、以上の実情に鑑み、地域に不可欠な公共交通機関である両路線の鉄道での早期全線復旧を図られるよう、次の事項を切に要望します。

- 1 JR大船渡線については、早急に鉄路での復旧に着手するようお願いいたします。
- 2 JR気仙沼線については、本市の震災復興に向けた都市計画事業など、復興に係るまちづくりの進捗に極めて密接に関係するものであり、鉄路での早期復旧を確約するとともに、地元との協議を加速されるようお願いいたします。
- 3 JR気仙沼線の当座の代替措置としてのバス運行については、運行の改善をお願いします。なお、BRTの導入に当たっては、鉄路での復旧までの代替措置として理解しますので、鉄路の復旧と併せ、早急に導入のスケジュール等の提示をお願いいたします。

平成 24 年 2 月 15 日

国土交通大臣 前田 武志 様

## J R 気仙沼線及び J R 大船渡線の 復旧・復興に係る要望書

気仙沼市長 菅 原 茂

気仙沼市議会議長 臼 井 真 人

(J R 大船渡線・気仙沼線の全線復旧を実現する気仙沼市議会議員連盟 会長)

## 要 望 書

今般の東日本大震災により、ＪＲ気仙沼線は気仙沼駅・柳津駅間において、また、ＪＲ大船渡線は気仙沼駅・盛駅間において、それぞれ多くの駅舎や線路が流出するとともに、その鉄道敷も大きく損なわれるなど、壊滅的な被害状況を呈しております。

震災からまもなく１年を迎えようとしておりますが、この間、国土交通省東北地方整備局及び東北運輸局、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社及び盛岡支社、沿線自治体等で構成する「ＪＲ気仙沼線復興調整会議」及び「ＪＲ大船渡線復興調整会議」がそれぞれ設置され、意見交換等が行われてきたものの、いまだに鉄道による復旧の見通しは示されず、両路線とも放置され運休のままとなっております。

ＪＲ気仙沼線及びＪＲ大船渡線は、先人の鉄道敷設に対する強い思いと度重なる請願により全線開通を果たしたものであり、特にＪＲ気仙沼線は構想から全線開通まで約８０年の年月を要した悲願の路線であります。開通後は通勤、通学や高齢者の通院など沿線住民の生活の足として、また仙台市と本市を最短時間で結ぶ都市間連絡機能として、さらには、三陸復興国立公園（仮称）構想の実現を目指す各地域を結ぶ観光を含めた産業全般を支える基盤として重要な役割を担ってきました。

このような中、津波で大きな被害を受けた路線について、昨年４月５日の記者会見における清野社長の「責任を持って復旧させる」との発言により、沿線住民は早期の鉄道による鉄道復旧を確信し、去る２月８日には、八戸市から気仙沼市までの三陸沿岸７都市で構成する三陸沿岸都市会議においても、鉄道による早期復旧を内容とする要望実施を決議したところであります。

つきましては、以上の実情に鑑み、地域に不可欠な公共交通機関である両路線の鉄道での早期全線復旧を図られるよう、次の事項を切に要望します。

1 JR大船渡線については、早急な鉄路での復旧推進を図られるようお願いいたします。

2 JR気仙沼線については、本市の震災復興に向けた都市計画の進捗に極めて密接に関連することから、鉄路での早期復旧の推進を図られるようお願いいたします。

3 鉄道復興に向けた財源については、国が第三セクター鉄道の復旧について、地元負担を実質ゼロにする措置を第三次補正予算で講じ、その復旧の目途が立ったところではありますが、同じ鉄路であるにもかかわらず東日本旅客鉄道株式会社の被災線路については、同社が自らの責任で復旧することとしており、今般の鉄道被害は過去に例を見ない程甚大な被害であることから、現行制度では一向に復旧が進まないのが現状であります。

このことから、経営が黒字基調である東日本旅客鉄道株式会社にあっても、第三セクターの復旧と同様、国において所要の財政措置を講じられるようお願いいたします。